

# 男女共同参画社会をめざして

木津川市では「男女がともに輝くまちづくりをめざして」を基本理念に掲げ、男性と女性が等しくその人権を尊重しあい、性別にかかわりなく、家庭・職場・学校・地域など社会のあらゆる分野に対等なパートナーとして参画し、その個性と能力を十分に発揮して、喜びも責任も分かち合い、ともに輝く男女共同参画のまちづくりをめざして取り組みを進めています。

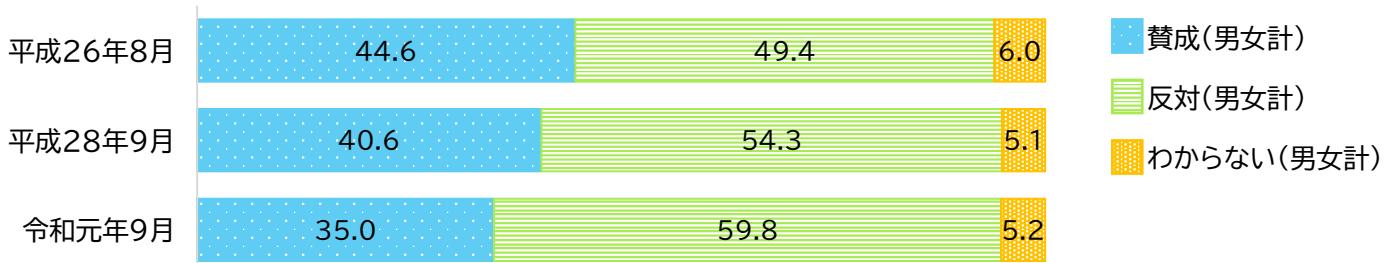
## 『男女共同参画社会』 って何？



“すべての人が性別にかかわりなく、意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会”です。

職場、家庭、地域生活などで一人ひとりが対等な構成員として自らの意思によって、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、その個性と能力を十分に発揮できる社会が望まれています。男女共同参画の実現は社会全体で取り組むべき課題です。

### 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え方



内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

上記のグラフを見てみると「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方賛成の人は減ってきており、令和元年の調査で35%です。実際の家庭の状況は、平成30年度には共働き世帯が専業主婦世帯の約2倍まで増えました。



### ～～性別による固定的役割分担意識～～

人々の意識の中に長い時間かけて形づくられてきた性別に基づく「固定的役割分担意識」は、男女共同参画の実現に向けた大きな障害の一つとなっています。

男女を問わず個人の能力等によって役割分担を決めることが適当であるにもかかわらず、性別を理由として役割を固定的に分け、「男は仕事、女は家庭」「男は主要な業務・女は補助的業務」など固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めています。このような意識は、時代とともに変わりつつありますが、今も根強く残っています。

# 日本のジェンダー・ギャップ指数は過去最低の121位！

※ジェンダーギャップ：男女の違いにより生じる様々な格差のこと

世界経済フォーラムが2019年12月、男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数2020」を発表しました。この指数は、経済、教育、健康及び政治の4つの分野のデータから作成されており、日本は153か国中121位でした。（前回149か国中110位）

国連の持続可能な開発ソリューションネットワークは、3月20日に2020年版の「世界幸福度報告書」を発行し、世界幸福度ランキングを発表しました。首位は3年連続でフィンランド、日本の順位は、153か国・地域中62位でした。（前回156か国・地域中58位）

## ジェンダー・ギャップ指数 ランキング

順位	国名
1	アイスランド
2	ノルウェー
3	フィンランド
4	スウェーデン
5	ニカラグア
6	ニュージーランド
7	アイルランド
8	スペイン
9	ルワンダ
10	ドイツ
15	フランス
19	カナダ
21	英国
53	米国
76	イタリア
81	ロシア
106	中国
108	韓国
121	日本

世界の平均寿命の長い国ランキングでは日本は1位なのに…



## 世界幸福度ランキング

順位	国名
1	フィンランド
2	デンマーク
3	スイス
4	アイスランド
5	ノルウェー
6	オランダ
7	スウェーデン
8	ニュージーランド
9	オーストリア
10	ルクセンブルク
11	カナダ
13	英国
18	米国
24	フランス
30	イタリア
61	韓国
62	日本
73	ロシア
94	中国



国民の幸福度の評価は主觀に頼る部分がありますので、それぞれの国の国民性や文化の違いは多少なりとも影響があると思いますが、フィンランドが3年連続で幸福度ランキング1位となりました。



また昨年、世界的にも話題になりましたが34歳の女性首相が誕生し、連立政権の他の党首に30代前半の女性が多くいることなど、そこには何か理由があるのではないでしょうか。

ランキング1位だからフィンランドが幸せで、日本がそうでないとはいえませんが、仕事もプライベートも大切にして自分らしく生きるフィンランド流の生き方を少し紐解いていきます。



※今回の世界幸福度ランキング1位のフィンランドに関する文章および内容については、堀内 都喜子氏著書の「フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか」ポプラ社により記載しています。堀内氏は、長野県生まれ。フィンランド・ユヴァスキュラ大学大学院で修士号を取得。フィンランド系企業を経て、フィンランド大使館で広報の仕事に携わる。

# 世界幸福度ランキング1位のフィンランドでは…

～仕事もプライベートも大切にして自分らしく生きる～

## “シス”という言葉が国民性を語るキーワード！

シスとは、困難に耐えうる力、努力してあきらめずやり遂げる力、不屈の精神、ガッツといった意味で、多くの海外メディアも「灰色の岩さえ突き破る」とたとえています。

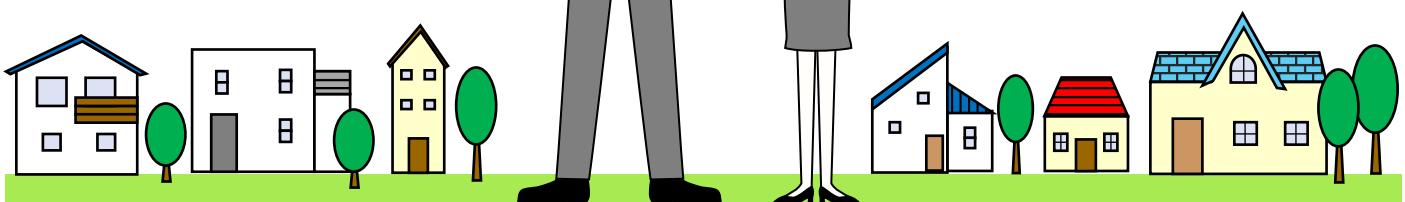
フィンランドでは男女ともに仕事、家庭、趣味、勉強も貪欲に追い求めています。

※シス (SISU)：フィンランド人を表す言葉で、「内にある何か (サムシグ・インサド)」という意味です。

心地いい働き方 効率のいい働き方 シンプルな考え方 上手な休み方 貪欲な学び方

ヘルシンキは、ヨーロッパのシリコンバレーと呼ばれているが、2019年にワーク・ライフ・バランス世界第1位に。ゆとりをもちながらやりたいことはやる。

男の子二人を抱え家庭と仕事で忙しい中、趣味のスポーツと語学の勉強を続けている。



## フィンランド社会にあるもの

ワーク・ライフ・バランスがとれている

周りの理解がある

家庭でも男女平等がある程度実現できている

## ◆◆◆ワーク・ライフ・バランス◆◆◆

仕事と家庭、地域活動などの調和がとれ、それぞれが充実している状態のことです。

仕事と生活の両方を大事にすることは、社会や事業者にとって、とても重要なことです。

今、社会においては、少子高齢化などによる人口減少時代が到来し、労働力人口が減少しています。企業における人材の確保は切実な問題となっており、優秀な人材の確保・育成・定着の可能性を高めるには、男性も女性も、そしてあらゆる世代にとって働きやすい環境を整えることが重要課題となっています。

